

⑧0 X 2025年度 小 論 文

問 題 冊 子 （1～2 ページ）

注 意 事 項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 問題冊子の余白等は適宜使用してもよい。

以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

近年、我が国は経済や科学技術の飛躍的な発展に伴い、豊かで便利な生活がおくれるようになってきました。また、都市化や少子高齢化の進展にあわせて、社会環境や国民の生活様式は大きく変化し、価値観も多様化しています。このような社会変化のなか、近年では子どもの体力が長期的に低下傾向にあります。文部科学省が1964年から行っている「体力・運動能力調査」によると、1985年ごろを境に子どもの「走る力」「投げる力」「握力」などは、全年代において長期的に低下の一途をたどっており、親の世代にあたる30歳代以降の大人が子どもだった頃と比較して体力が著しく低下しているといわれています。スポーツ庁が小学5年生と中学2年生の男女を対象に例年実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、2020年より流行した新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2020年以降は急激に低下していますが、コロナ禍以前と比べても2022年度の「体力合計点」は男女ともに2019年度を下回っており、8種目の体力・運動能力のうち長座体前屈を除く全ての種目において低下傾向を示しています。学校での活動が制限されて体育の授業以外での体力向上の取り組みが減少したこと、また朝食欠食や睡眠不足、スクリーンタイム（スマートフォンの視聴やゲームをする時間）の増加に伴って外で体を動かす時間が減少していること、肥満傾向児の増加などが、その要因として指摘されています。また、学校の朝礼中に倒れる子ども、机に突っ伏すなど教室できちんと席に座っていることができない子ども、常に疲労感を訴える子どもなど、必ずしも数値には表れない以前と異なる子どもが数多く見られるようになってきています。現在、生活全体が便利になるとともに、日常生活をおくるうえで必要とされる様々な労力が軽減されるようになってきており、ただ生活するためだけであれば、必ずしも高い体力水準や多くの運動量を必要としない世の中になってきています。現代社会におけるスクリーンタイムの増加やコロナ禍の影響により、社会全体として運動をしないまたは運動の時間が減少したままの生活習慣が定着してしまう可能性があり、今後も子どもの運動不足や低体力は深刻化することが予想されます。子どもの体力は発育発達・成長を支え、個人が生涯にわたって充実した生活を送り、明るく活力のある社会を維持形成していく基礎的能力です。しかし、現実には子どもの体力は低下傾向を続けており、子ども達の健康への悪影響、活

気・活力の低下などが今後の社会問題に繋がることが懸念されます。体力は人間の発達・成長を支え、創造的な活動をするために重要な要因であることから、将来を担う子ども達の体力を維持・向上させていくことは、我が国の将来の発展のためにも喫緊の課題であると考えられます。従って、日頃から学校や家庭で運動やスポーツをすることの大切さを伝え、運動習慣の定着を図るためにも、楽しみながら運動ができるような工夫をすることが必要であると考えられます。

(出典：池田正春ほか、人生100年時代のヘルスプロモーションのすすめ

梓書院、2024年5月)

問 本文を参考にしながら子どもの体力低下の要因を2つあげ、それぞれの要因別に考えられる対策について具体的に800字程度で述べよ。

⑧1 X 2025年度 小論文

問題冊子（1～2ページ）

注 意 事 項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 問題冊子の余白等は適宜使用してもよい。

以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「なぜスポーツパフォーマンス分析を行うのか」

アスリートとコーチは、様々な準備について意思決定を行っており、それは根拠に裏付けられる必要がある。彼らは注意を必要とするパフォーマンスの側面、効果的に遂行できる戦術、そして対戦相手の強みと弱みを理解する必要がある。スポーツパフォーマンス分析は、コーチ、ハイパフォーマンスディレクター、そしてその他のユーザーに、スポーツパフォーマンスについての妥当で正確で信頼するに足る情報を供給するために用いられる。この情報はコーチやアスリートが下さなくてはならない多くの種類の意思決定を助ける。パフォーマンス分析サポートの利用は、コーチやその他の観察者が自分の観察だけに頼ろうとしている時、その限定された記憶を乗り越える助けになる。サッカーにおいても、コーチの記憶は決定的に重要な問題の45%以下に限定されることが分かっている (Franks and Miller, 1986)。UEFA (欧州サッカー連盟) の最近の研究によると、プロのライセンスを持ったコーチでは、この割合が59%まで上がることが分かっている (Laird and Waters, 2008)。しかし、記憶というものはそれでもなお不完全であり、偏見と誤解を受けやすいだけでなく、不正確でもありうる (Cohen et al., 2011: 211)。

一般に、感情は観察による評価に影響を与える可能性がある。競技スポーツにおけるパフォーマンスは、感情が観察者の認識の正確性に影響を与えることを示す明確な例である。試合後にテレビで録画を見ることが出来るサッカーの試合をライブ観戦に行った時、このことを自ら経験できるであろう。試合をライブ観戦している時は、あなたは鍵になるレフェリーの判定を、それが正しいと思っているかどうか、またサポーターがそれに対してどのように反応したかどうかを含めて見ているはずである。そのあとで、試合の録画、とりわけ、サポーターの大部分がレフェリーに特に賛同しなかったことを覚えている場面を見てみよう。そのレフェリーの判断は、ゲームのルールに従うと正しかったのだろうか。もし正しかったならば、そんなにも多くのサポーターが正しくなかったということがあるだろうか。彼らは周りにいる他のサポーターの反応に影響を受けたのだろうか。彼らは自分の応援するチームに不利な判定に敵意を表すことで、レフェリーにプレッシャーをかけようとしていたのだろうか。サポーター

たちは、相手チームに不利な判定に対しても、同じように声をあげたのだろうか。サポーターからの先入観はあったのか。そうであれば、それが観戦行動の感情的な側面によって悪化させられたのだろうか。

著者自身の経験から感情による影響があった例を述べてみよう。それは、会場でライブで見ていたボクシングの試合であった。著者は、自分が応援していたボクサーが、テクニカルノックアウトで勝利を取めた第8ラウンドまでずっとポイントでリードされていると考えていた。数週間後、試合の結果を知った上で、著者はもう一度試合の全てを録画映像で見直し、このボクサーが試合の最初からゆうゆうとリードしていたことを知った。偏見のない立場のテレビ解説者も、そのボクサーがテクニカルノックアウトで勝利するまでずっとリードしているとみていた。

スポーツパフォーマンス分析は、このような誤解や、記憶の限界、感情的な偏見を克服するための情報を提供する。スポーツパフォーマンス分析は客観的であることを目的とし、より効果的な意思決定を支援するためにフィードバックの過程の中で活用される。

(出典：ピーター・オドノヒュー，中川昭（監訳）．

スポーツパフォーマンス分析入門 大修館書店 2020年3月)

問 本文を参考にしながら、スポーツパフォーマンス分析の目的を明確にして、スポーツにおけるパフォーマンス分析の重要性とその影響について800字程度で述べよ。

⑧2 X 2025年度 小論文

問題冊子（1～2ページ）

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし，解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 問題冊子の余白等は適宜使用してもよい。

以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

スポーツが文化として根付いていない日本では、所々に海外との違いが存在する。スポーツをすること、見ることは人々に喜びをもたらすが、そのツールとしての認知が希薄だ。スポーツは日常生活と別にあるものとして捉えられ、オリンピックやW杯のような世界的イベントでは、選手たちの活躍はブームのように一過性のものとして報じられ、消費される。

スポーツが文化の一つであるという認識が薄く、スポーツを支える土壌もあまりない。スタジアムなどのスポーツ施設が公的な組織のものであることが多いのも、その原因であり結果なのかもしれない。

幸野^{注1}は、そんな日本のスポーツ界の現実を直視して、立ち向かっている。彼の声を聞くと、スポーツ界の問題点が浮き彫りになってくる。

「日本にとってのスポーツは運動、つまり体育になっていると感じています。70年以上前、戦後に国民を健康にするために運動をさせようと考えて、学校にスポーツ施設をどんどん作った。国民を楽しませようとしたわけじゃない。本来、スポーツはラテン語の『デポルターレ』（気分を変える、楽しむ）という言葉に語源があると言われてるように、楽しむためのものであるはずだったのですが、学校に入れたことによって教育にすり替わってしまった。忍耐や努力、我慢、礼儀という教育的な要素になったのです。授業で体育を学び、中学生になると放課後に部活をやる。これが日本人のデフォルト^{注2}。それはスポーツではなく体育と言えるのではないのでしょうか」

千葉県市川市に城を構えた市川 GUNNERS は、そうした「スポーツのあり方」に異議を唱える。Jリーグ傘下ではない、地域の町クラブが大きな城を構え、根付いていくことで、模範的なクラブの姿を見せようとしている。

とはいえ、地域の町クラブがグラウンドを所有することは、そんなに簡単なことではない。もともとないものを作り上げていくのには、莫大な費用がかかる。サッカー界、スポーツ界を啓蒙したいという思いだけでできるものではない。

注1 幸野健一。サッカー界において「育成のカリスマ」と高評価を受けている人物。「サッカーコンサルタント」の肩書をもつ。

注2 「デフォルト」は、ここでは「標準」の意。

(出典：氏原英明，甲子園は通過点です 勝利至上主義と決別した男たち，
新潮社，2021年8月)

問 本文を参考にしながら，教育的要素が強いともいわれてきた日本の青少年スポーツの今後のあり方について，「文化としてのスポーツ」と「体育としてのスポーツ」という2つの視点から，あなたの考えを800字程度で述べよ。